

令和3年度

事業報告

上富良野町発達支援センター『ひよこ学級』

《 在籍数及び年間利用者数 》

上富良野町	49人	年間利用	1370人
中富良野町	15人	年間利用	447人

《 職員体制 》

R4.3月末

施設長（兼務）	1人
児童発達支援管理責任者	1人
療育指導員（正職）	2人

療育指導員（嘱託）	3人	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;"> 4月 4人 5月 3人（4月末1人退職） 8月 3人（7月末1人退職、8月1人入職） 10月 4人 R4.1月 3人（R3.12月末退職） </div>
-----------	----	---

《 指導体制 》

個別指導 … 午前2枠、午後2枠（1時間）

	月	火	水	木	金
09:00～10:00	個別	個別	個別	個別	個別
10:30～11:30	個別	個別	個別	個別	個別
13:30～14:30	個別	個別	個別	個別	個別
15:30～16:30	個別	個別	個別	個別	個別

《 在籍児推移 》

月 (開設日数)	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	入退級		
								うち中富	入級	退級
4月(21)	0	3	7	15	18	14	57	14	6	0
5月(18)	0	3	7	15	18	15	58	14	1	0
6月(22)	0	3	7	15	18	15	58	14	0	0
7月(20)	0	3	7	15	19	17	61	14	3	0
8月(21)	0	2	7	15	19	18	60	14	0	1
9月(20)	0	2	8	15	19	18	61	14	1	0
10月(21)	0	2	8	15	19	18	61	14	0	0
11月(20)	0	2	10	14	19	18	63	15	3	1
12月(22)	0	2	10	15	19	18	64	15	1	0
1月(17)	0	2	10	15	19	18	64	15	0	0
2月(18)	0	2	10	15	19	18	64	15	0	0
3月(0)	0	2	10	15	19	18	64	15	0	21

令和4年3月は施設移転のため閉館

《 他機関利用の状況 》

- ・ 認定こども園上富良野高田幼稚園 20人
- ・ 認定こども園わかば中央保育園 11人
- ・ なかふらのこども園 13人
- ・ 認定こども園上富良野西こども園 6人
- ・ 認定こども園わかば愛育園 11人
- ・ 子育て支援等 3人

《 年度別利用者数の推移 》

年 度	年間開設日数	延べ利用者数	一日平均利用者数
平成29年度	243日	1,622人	6.7人
平成30年度	251日	1,822人	7.3人
令和1年度	245日	1,844人	7.5人
令和2年度	235日	1,806人	7.7人
令和3年度	220日	1,817人	8.3人

《 研 修 》

月 日	内 容	参加者
7月5日	令和3年度富良野地域自立支援協議会・第1回上富良野部会	2人
7月30日	令和3年度富良野地域自立支援協議会・第1回児童発達支援部会（富良野市）	1人
7月31日	令和3年度肢体不自由児通園施設職員等研修会（オンライン開催）	2人
9月16日	2021年度北海道児童発達支援管理責任者更新研修（オンライン開催）	1人
9月18日	第28回北海道通園センター連絡協議会研修（オンライン開催）	3人
10月9日	北海道乳幼児研究大会 第35回研究大会（オンライン開催）	3人
10月27日	令和3年度美瑛町子ども支援センター子育て支援後援会	1人
11月4日	令和3年度東神楽町・東川町療育推進協議会療育部会（東神楽町）	1人
1月11日～12日	第5回旭川療育センター地域支援セミナー（オンライン開催）	2人
12月9日	令和3年度上川圏域子ども発達支援研修（オンライン開催）	1人
12月10日	令和3年度富良野地区こども発達支援推進研修会（富良野市）	2人
1月27日	上川教育局主催 第3回特別支援教育研修（オンライン開催）	1人
2月24日	2021年度北海道児童発達支援管理責任者更新研修（オンライン開催）	1人
3月22日	令和3年度富良野地域自立支援協議会・第4回上富良野部会	1人
3月30日	令和3年度富良野地域自立支援協議会・第2回生活支援部会	1人

《 子ども発達支援推進研修会 》 場所：上富良野町公民館 大ホール

日 時	10月13日（水）18時30分から20時00分
演 題	暮らしのなかでことばを育む～共に生きる大人の眼差し～
講 師	熊田 広樹（旭川大学短期大学部幼児教育学科 准教授・言語聴覚士）
参加者	48人（町内参加者39人、町外参加者9人）

《 人材育成研修会 》 場所：上富良野町公民館 大ホール

日 時	8月25日（水）18時30分から20時00分
演 題	支援をするときのコミュニケーションについて
講 師	松田 剛 氏（臨床心理士）
参加者	上富良野町・中富良野町こども園職員、上富良野町教育関係者、福祉関係者 36人

* 2回目は令和4年1月25日を予定していたが、新型コロナウイルス感染症増加のため中止

《 道立施設専門支援事業（基礎研修） 》 北海道旭川子ども総合療育センター

日 時	2月4日（金）9時00分から16時30分 *5月21日予定が延期実施
基礎研修	通園児2人受相
派遣職員	木村医師、齋藤理学療法士

《 地域療育支援 》 北海道立旭川子ども総合療育センター言語聴覚士、理学療法士による相談

実施回数	4回（4月23日、8月20日、10月18日、12月8日） *6月15日中止
派遣職員	言語聴覚士（寺尾、長嶺、筒井）、齋藤理学療法士
受相者	14人（通園児9人、通園外5人）

《 巡回支援専門員整備事業 》 専門職による運動面、言語面の相談

実施回数	2回（6月24日、8月5日） *5月14日、7月5日延期 *9月8日、10月15日、11月12日、12月13日、1月14日、2月17日中止
派遣職員	鈴木作業療法士（個人）、佐藤言語聴覚士（北海道療育園）
受相者	6人（通園児3人、通園外3人）

《 その他 》

保護者交流会 5回（5月、7月、10月、11月、R4.1月）	2か月に1回	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5回実施
発達検査・知能検査 18回 検査者：松田臨床心理士		
カウンセリング 19回 相談員：松田臨床心理士		
職員学習会（WISC-IV知能検査について）講師：松田臨床心理士	5/21、1/7	
家族支援（発達相談等） 184回		家族相談・兄弟相談・検査結果報告・担当者会議参加等
きょうだい支援 486回（実人数26人）		
市町村子ども発達支援センター通級回数 174回		児童発達支援前の発達相談や個別支援等
社会福祉協議会ボランティア依頼 64回（きょうだい支援）		

《 活動のまとめ 》

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症まん延防止宣言が出されたため、利用の自粛や予定していた事業が中止となった。

町立病院の子どもセンター敷地内建設に伴い、令和4年3月は子どもセンターを閉館とし、社会教育総合センターへ移転した。

○療育支援

- ・ 子どもの発達の過程・特性を理解し、子ども自身の力を認め、それぞれに応じた適切な援助と環境調整を行った。
- ・ 発達状況に応じた個別支援計画を作成し支援を提供した。
- ・ 個別支援計画によって子どもの発達や状況の課題について保護者と共通理解を深める機会とした。また、定期的な見直しを行い、よりよい支援につながるよう努めた。
- ・ 作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士等の助言、発達検査の実施等を踏まえ、療育の質の向上に努めた。
- ・ 認定こども園と情報共有を行い、療育の充実を図ることに努めた。
- ・ 発達相談から児童発達支援へスムーズに移行できるよう、切れ目のない支援に努めた。
- ・ 保護者のニーズに応じた指導時間対応等に努めた。

◆課題

- ・ 環境要因に重点をおきつつ、社会性・運動面・言語面の発達にも目を向けていきながら、早期での関わりを提供できることを目指す。
- ・ 保護者のニーズ把握や先の見通しが持てる支援が提供できるよう、スタッフの療育支援の資質向上を目指す。
- ・ ケースごとの状況等を職員間で共通理解できる会議等の実施に努める。

○家族支援・きょうだい支援

- ・ 障害のある子どもを育てる家族の育ちや暮らしが安定するよう家族支援、家族相談に努めた。
- ・ 通級児きょうだいの発達にも着目し、きょうだい支援に努め、必要に応じて専門家の相談や相談支援事業所へつなげた。社会福祉協議会ボランティアセンターへ依頼を行った。
- ・ 保護者交流会を設け、親同士の交流の場、発達支援への意見・要望等を聞く時間を設けた。
- ・ 就学に向けて、年長児・年中児保護者に対して、就学までのスケジュール説明を学校教育班に依頼し、小学校への見通しが持てる場を設けた。

◆課題

- ・ 保護者向けの学習会開催の実施。
- ・ 個別で保護者と十分な時間を設ける。

○地域の体制づくり

- ・療育に関する情報及びそれぞれの機関の専門的知識や経験を共有し、地域全体における療育の充実を目指した。
- ・地域に向けての学習会開催で他機関との情報交流や地域連携への強化を図った。

◆課題

- ・療育に関する情報及び適切な支援に向けて、連携を図るとともに、職員のスキルアップに努める。
- ・すべての子どもたちが地域で楽しく過ごせること、子どもの特性が活かされる環境をつくることを目指し、地域理解・周囲理解が図られるよう啓発、活動に努める。